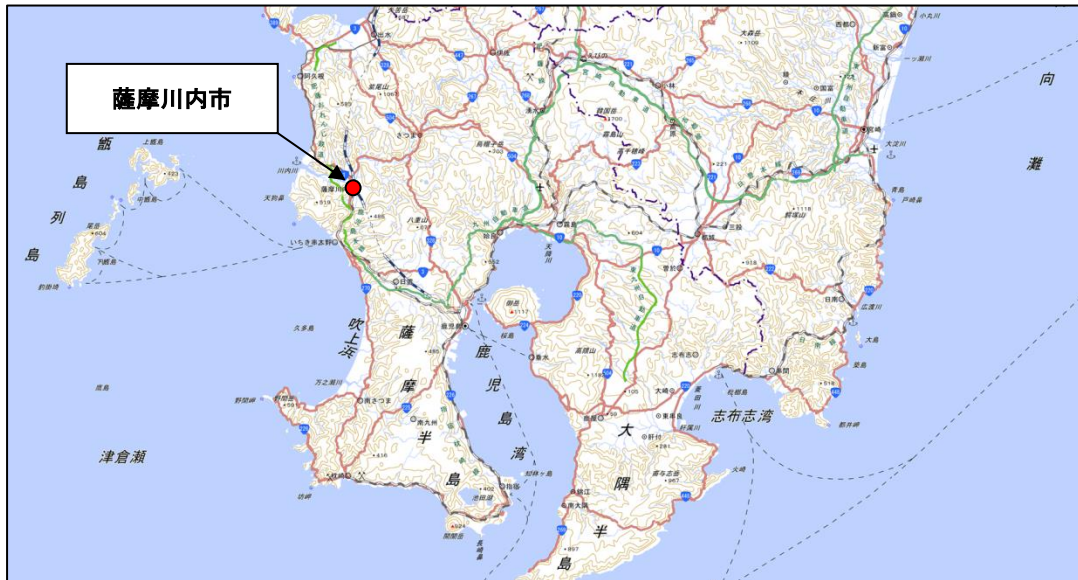


年号：1954年

月日：9月16日～18日

災害名：台風第5号の概要

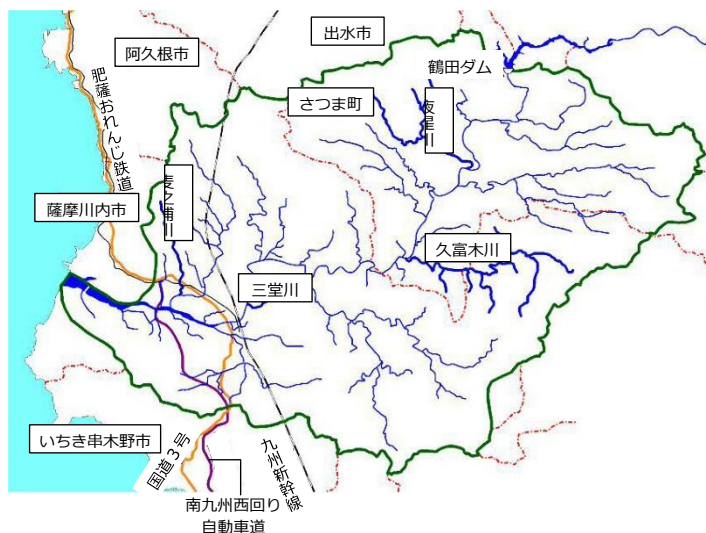
鹿児島県薩摩川内市位置図



出典：国土地理院

【川内川の水害】

- 川内川は、その源を熊本県球磨郡あさぎり町の白髪岳（標高 1,417m）に発し、羽月川、隈之城川等の支川を合わせ、川内平野を貫流し薩摩灘へ注ぐ、幹川流路延長 137 km、流域面積 1,600k m²の一級河川である。（うち、川内川下流圏域面積は 868k m²）
- 川内川の史実に基づく一番古い洪水は、「続日本書記」及び「大日本史」に記載されている天平 18 年 10 月 5 日（西暦 746 年）の洪水であり、古くから人や家畜の死傷、家屋の埋没・流失といった惨事が幾度ともなく繰り返されてきた。
- 洪水記録が整理されはじめた 1500 年代から現在に至るまで約 200 回を超える記録があり、平均で 2 年に 1 回程度、洪水が発生している。特に昭和 40 年代は大規模な水害が頻発した。



▲川内川下流圏域概要図

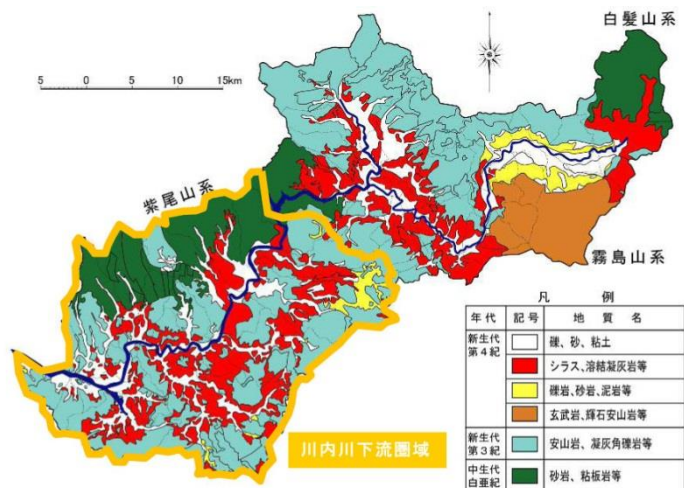
出典：鹿児島県 HP

▼川内川流域の主な水害

出典：鹿児島県

洪水発生年	原因	流域平均 12時間雨量	被害状況
昭和 2年 8月11日	豪雨 (台風性)	—	浸水家屋(約3,000戸) (川内町調査のみ)
昭和18年 9月19日	台風	—	家屋全半壊・流失(144戸) 浸水家屋(3,333戸)
昭和29年 8月18日	台風	133mm	死者(13名) 家屋全半壊・流失(8,578戸) 床上浸水(2,102戸)、床下浸水(10,236戸)
昭和32年 7月28日	梅雨	230mm	死者・行方不明者(6名) 家屋全半壊・流失(30戸) 床上浸水(1,433戸)、床下浸水(7,689戸)
昭和44年 6月30日	梅雨	152mm	死者・行方不明者(52名) 家屋全半壊・流失(283戸) 床上浸水(5,874戸)、床下浸水(7,448戸)
昭和46年 7年21日	梅雨	136mm	死者・行方不明者(12名) 家屋全半壊・流失(347戸) 床上浸水(戸3,583)、床下浸水(8,599戸)
昭和46年 8月 3日	台風	206mm	死者・行方不明者(48名) 家屋全半壊・流失(662戸) 床上浸水(3,091戸)、床下浸水(9,995戸)
昭和47年 6月18日	梅雨	239mm	死者・行方不明者(7名) 家屋全半壊・流失(357戸) 床上浸水(1,742戸)、床下浸水(3,460戸)
昭和47年 7月 6日	梅雨	136mm	死者・行方不明者(8名) 家屋全半壊・流失(472戸) 床上浸水(695戸)、床下浸水(1,399戸)
平成元年 7月27日	台風	223mm	家屋全半壊・流失(45戸) 床上浸水(171戸)、床下浸水(702戸)
平成 5年 8月 1日	豪雨	190mm	家屋全半壊(9戸) 床上浸水(170戸)、床下浸水(423戸)
平成 5年 8月 6日	豪雨	188mm	家屋全半壊(9戸) 床上浸水(102戸)、床下浸水(410戸)
平成 9年 9月16日	台風	190mm	家屋全壊・一部破損(3戸) 床上浸水(264戸)、床下浸水(223戸)
平成17年 9月 6日	台風	185mm	家屋一部損壊(12戸) 床上浸水(37戸)、床下浸水(144戸)
平成18年 7月22日	梅雨	295mm	死者・行方不明者(2名) 家屋全半壊・流失(32戸) 床上浸水(1,816戸)、床下浸水(499戸)

- 川内川流域の地質をみると、約 33 万年前の加久藤カルデラ形成時噴出物の上に、約 2 万年前の始良カルデラ形成時の入戸火砕流堆積物(シラス)が覆っている。
- シラスは、隙間が大きく透水性も高いため流水に弱く、豪雨時の被害が発生しやすいという特徴がある。



▲川内川流域地質図

出典：九州土地質図(国土交通省 九州地方整備局)

【台風による昭和29年8月の洪水】

・昭和29年8月13日に発生した台風第5号の接近に伴い、川内川流域では17日夜半より降雨の激しさと共に上昇し始めた水位が上昇を続けた。(台風の発生は8月16日～18日とされる)



・この台風により崖崩れが426箇所が発生し、鹿児島県内の死者は13名、負傷者55名の人的被害を出し、家屋全半壊・流失8,578戸、床上浸水2,102戸、床下浸水10,236戸に達した。宮崎県では死者39名、行方不明者4名の人的被害を出し、地すべり1箇所、崩壊5箇所、土石流が1箇所発生したとされている。